

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	音楽基礎 1	
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	全コース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	教科書は設定なし。学生には5線譜のノートを持参してもらい、その回のテーマをプリントで補足しながら説明する				
担当教員情報					
担当教員	宮澤 由衣		実務経験の有無・職種	有・ピアニスト	
学習目的					
これから音楽業界に携わっていく学生たちが楽曲の構造に対し関心を持つことに重点を置く。楽曲製作者の意図を汲み取れるよう楽譜の読み方を理解し、音符が示すものを理解することによって音楽に対する関心を深めていく。アーティストが用いるコードにどういった意味があるかを理解することで、よりアーティストの意思を感じ取ることができるようになる。また5線紙のノートに実際に記述することにより、譜面を手書きすることに対する抵抗をなくす。講義内では実際に鍵盤楽器を奏でて、譜面の中で示される強弱や奏法について、まずは感覚的に捉えられるようにする。少しでも音楽の成立について理解ができるよう、音楽史についても触れていく。					
到達目標					
楽器や音源の成り立ちに対し、学生たちが興味・関心を持てるようになることを到達目標とする。これにより関わって行くアーティストの楽曲を製作する上での意図を汲み取ることができ、よりアーティストに寄り添うことができる裏方スタッフの育成を目指す。音楽への関わり方は学生それぞれのためどうしても音楽に対する理解度もまばらになってしまいがちだが、業界で働く上で最低限抑えるべきポイントを理解させることにより、どの学生であっても楽曲の構成について向き合うことが出来るようになる。観て学んだ音符や奏法、演奏する上での指示を鍵盤楽器の実演で示すことにより、感覚的に譜面の指示を理解できるようになる。					
教育方法等					
授業概要	講義の内容としては毎回テーマについて説明をするところから入り、そのテーマに沿って説明を行っていく。教科書などは用意せず、その都度プリントを配布することで補足説明をより分かりやすく理解できるようにしていく。習得しておくべき知識であるため、同じ内容を何度も反復して復習できるよう、授業の内容を設定していく。疑問や理解できなかった部分は個別対応ができるよう、講義内で時間を設けてなるべく知識を頭に入れられる環境づくりを行っていく。				
注意点	毎回プリントを配布することになるため定期テストの範囲はわかりやすいが、プリントを紛失してしまうと試験前の対策などに影響が出る可能性がある。また5線紙を利用するためプリントの他にも毎回の講義で紙の資料が増えていくため、配布資料と板書ノートの管理は細心の注意を払ってほしい。また、過去の講義で教えた事柄が次の講義では当たり前前の共通認識として講義を展開するため、もし理解し切れていない部分があった場合にはその日のうちに確認をし、次回の講義に備えて欲しい。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	講義前オリエンテーション		この講義で学ぶ内容を説明し、5線紙の活用の仕方をレクチャーする		
2回	音楽の三大要素		メロディー、ハーモニー、リズムを理解する		
3回	音源を聞いて答えたい12のこと		何分の何拍子、Key、テンポ、Beat、ジャンル、構成、イントロの小節数、Aメロ、メロディー、コード、メロディーの最高音＆最低音、歌詞、テーマ、コンセプト		
4回	コードの読み方、度数の出し方		譜面に記載されているコードの読み方を理解し、減一完全一増、増一短一長一増を理解する		
5回	音符の読み方、リズムトレーニング		譜面上に並ぶ音符の「ドレミ」を読めるようにする。譜面のリズムを読み取れるようにする		
6回	音符や指示の種類と意味		タイ、スラー、四分音符、八分音符、三連符、4分の4拍子、8分の12拍子、4分の3拍子、8分の6拍子、4分の2拍子、2分の2拍子		
7回	音に関する記号について		シャープ（＃）やナチュラル（♮）等の記号を理解し、5線譜に書く練習をする		
8回	5度圏とは		各キーで基本的に使用できる音を把握する		
9回	譜面の読み方（1）		G、D、A、E、B、Fメジャースケールを書いてみる、♯が付く順番、♭が付く順番、C、Cm、Cdim、Caug、Csus4、F、G、D、E、A、B、B♭、E♭、Dm、Em、Fm、Gm、Am、Bm、C♯m、F♯mを和音で書く		
10回	譜面の読み方（2）		リピート記号やダルセーニョ、コーダ、クレッシェンド、アクセント、フェルマータ、フィーネ、リタルダント、アクセル、クレッシェンド		
11回	5線譜に書く練習		休符、音階を日本語、英語、ドイツ語で書く、これまで学んだ事を5線譜に書いてみる		
12回	12KEYの曲について		C、D♭、D、E♭、E、F、F♯/G♭、G、A♭、A、B♭、B、マイナーコード、3/4&6/8の曲を理解する		
13回	その他記号について		ト音記号について、ヘ音記号について、音名4か国語、鍵盤と音を一致させる、♯&♭&♮に関して、♯&♭が付く順番、休符&連符の話、異名同音、音程、音階、コードの話、復習		
14回	これまで学んだ事の総復習（1）		テスト方式でプリント課題を実施し、弱点を見つける		
15回	これまで学んだ事の総復習（2）		全体のまとめ、前回の講義で発見した弱点を個別対応で解決する		